

## 今週のメニュー

## ■トピックス

◇環境展示会“エコプロダクツ2015”に出展

## ■随想

◇小笠原紀行（その6）－小笠原のクリスマス－

上智大学 地球環境学研究科 織 朱實

## ■編集後記

## ■トピックス

## ◇環境展示会“エコプロダクツ2015”に出展

昨年12月10日から12日までの3日間、エコプロダクツ2015（（一社）産業環境管理協会、（株）日本経済新聞社主催）が、東京ビッグサイト東ホールで開催されました。今年の出展者数は702社・団体、入場者数は約17万人となりました。

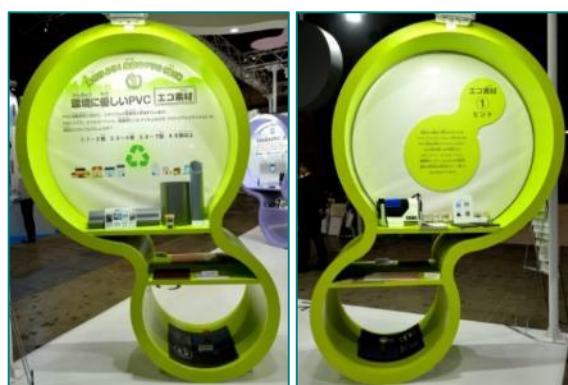
9年連続出展となる今年は、「身近なエコ素材 PVC で安心・安全・快適な社会の実現」と題して、長寿命・リサイクル性能で省エネ・資源節約の特長を持つ塩ビ製品が、「安心」、「安全」、「快適」、更には「防災」の分野でも日常生活の中で大きく貢献しているかを訴えました。

ここで、ご来場頂けなかった方々へブースと展示品を簡単にご紹介いたします。今年は、昨年に引き続き塩ビの柔軟性の高いイメージをPRしたく、2つのサークル（円）をつなぎ合わせた形状をキーシンボルとし、これらを各面に向けて開いた配置とすることによって、全体が明るく開放的なブースに仕上がりました。

ブース内に「エコ素材」、「安全」、「安心」、「快適」のコーナーを設け、「エコ素材」のコーナーではリサイクル性能を、他の3コーナーではそれぞれの分野でどのように PVC 製品が貢献しているかをクイズラリー形式にして判りやすく表現し、そのコーナー毎に関連した PVC 製品を展示しました。



VEC/JPEC ブース



「エコ素材」コーナー  
左(表)：クイズ / 右(裏)：ヒント

また、左奥のエリアには、雨水ます、耐震配管、簡易止水シートなど「防災」の分野で貢献している PVC 製品を、ブースセンターには「PVC の新しい展開」として、“PVC Design Award 2015” 大賞の“日立ラップブルータイプ”と“テトラサーバー”、そして“moshimo（子供用レインコート）”などの優秀賞、入賞の作品、右奥のコーナーには、過去の受賞作品を中心に、塩ビの新しい可能性を追求した作品を紹介しました。



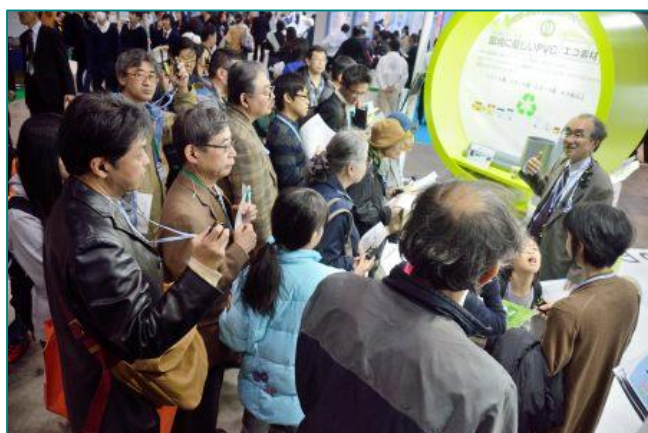
「防災」関連の PVC 製品



“PVC Design Award 2015”  
受賞作品



過去の受賞作品



エコツアーの様子

また、今年も例年どおり会場内エコツアーで、「素材の力で未来を変える」というテーマで当ブースを取り上げていただきました。日本理科教育支援センター／理科教育コンサルタントの小森栄治さんが、合計約 160 名のツアー参加者にパイプを代表とする PVC 製品の長寿命性とリサイクル性、樹脂サッシの省エネ性、60 年近く使用されている血液バッグやラップフィルムの安全・信頼性などを、展示品を例に丁寧にわかりやすく説明してくださいました。

クイズラリーの回答欄の最後に最も PVC 製品がどの分野で認知されているか投票してもらいました。投票の結果は 1 位“エコ素材”（38%）、2 位“安心”（24%）、3 位“安全”（22%）、4 位“快適”（15%）となりました。PVC がエコ素材であると認識されて来た結果だと思えます。

ブースに訪れた多くの方々に、PVC 製品が様々な分野、用途で PVC 製品が使用されているのをご理解頂けたと感じています。



## ■ 随想

### ◇小笠原紀行（その6）－小笠原のクリスマス－

上智大学 地球環境学研究科 織 朱實

新年あけましておめでとうございます。2016年も、よろしく願いいたします。

さて、2015年の最後の小笠原は、12月14日から25日にかけてでした。帰宅の船は、12月24日父島二見港14時出発、12月25日15時30分竹芝棧橋着。この予定を聞くと、皆さん一様に、「船でクリスマスなんて素敵ですね！」という反応でした。豪華客船のようなものをイメージしているのかと思うのですが、本土と小笠原を結ぶ唯一の手段であり、生活のライフラインであるおがさわら丸はそんな優雅なものではなく、味もそっけもない船なのです（期待していた船上クリスマスイベント的なものは・・・、もちろんありませんでした。残念！）。しかし、今回の小笠原滞在ではこのおがさわら丸（通称おがまる）の重要性を再認識されるアクシデントがありました。



そっけないおがさわら丸ですが、船上からの夕日は最高です

現在のおがさわら丸は、1997年に竣工された2代目で、全長131m、総トン数6,700t、通常期営業定員が769名（本来は、1000名乗船可能なのですが、

かつては夏の繁忙期に1000名ぎりぎりまで乗船させていたため、2等船室（カーペット敷きの体育館のような船室。雑魚寝形式で、簡易マットレス・簡易枕・掛布が割り当てられる）が、寝返りも打てないくらいギューギュー詰め。クレーン続出で、現在の700名強の定員におさえるようになったそうです）。一隻しかない船なので、年に1回2週間のドック入りをしている間は、島への生活必需品の輸送もストップ（もちろん郵便もストップ）、観光客の受け入れも難しくなるので、この時期は島全体が長い休暇のような感じになるそうです。この時期に、本土に帰られる島民の方も多いようです。

そして、1年に1回のおがさわら丸にとっての健康診断にあたる1月のドック入りをひかえた、12月21日竹芝棧橋発、22日父島着予定のおがさわら丸に、なんと、なんと機関トラブルが発生！5時間運航したところで、2つのエンジンのうち1つが動かなくなり、倍の時間、10時間かけて竹芝に戻っていったそうです（ちなみに、竹芝棧橋に戻っても、港に停泊できるというわけでないので、東京湾の中でその晩は過ごして乗客は翌日の12月22日に下船したそうです）。

このおがさわら丸には、内地からの出張者が乗船しており、私たちは出張者との打ち合わせ、調査をするために母島で待っていたのですが、出張者が来島できなくなり降ってわいたようなフリー時間が発生してしまいました。

船の故障と聞いたときは、「1日で治るだろう」とたかを括っていたのですが、島民のかたの反応はもっと深刻で「今回の船がこなかったら、12月24日発便もなくなるからいつ本土に戻れるかな」「前は、1週間動かなかったし・・・」。

ここで、「1日仕事がなくなってラッキー！」くらいに思っていた私も、おがさわら丸が父島に戻ってこなければ、12月24日発の便がない、すなわち12月25日は戻れない、下手をするとこのまま小笠原で年越しをしなければならない事態になることに気が付いたのです。

当然、物資も来ない。島民のみなさんの対応はさすがに素早く、この日の昼過ぎには父島、母島ともスーパーの生鮮食品はからっぽ、ミルク、ヨーグルト、パン類がまっさきになりました。おがさわら丸がライフラインである、という意味を遅まきながら実感したのでした（フェイスブックに「年末、戻れないかも」とアップしたら、日頃の行いの悪さのせいでしょうか、「飛行機があるでしょう？」「本当は戻れるのに、口実？まあ、小笠原はいいところだものね」的なコメントが複数。おがさわら丸だけが、唯一のもどれる手段なんですよ～！と本土に向かって思わず叫びたくなりました）。

それよりも、もっと深刻だったのが「おがまるが来ないと、サンタが来ない！！！」お母さんたちが、集まるとひとしきりその話題でした。「子供たちになんて説明をしようか」「防災無線で、今年はおがまるが故障したのでサンタが来れません、って流してもらおうか」「サンタって、トナカイで来るんでしょう？と聞かれたら、小笠原には船で来るんだよ、とか言わないといけないよね」「それより、ケンタッキーも今年はないのね」。

ケンタッキー??ケンタッキーが、なぜおがまるに?実は、母島では、毎年クリスマスに各家庭から予約をとって、本土からケンタッキーとクリスマスケーキを冷凍して運んでもらっているそうです。小笠原には、マクドナルドも、モスバーガーも、ロッテリアもコンビニもないので、この1年に1回のケンタッキーが島民のみなさん（大人も子供もふくめて）とても楽しみにしているそうです。ケンタッキーとケーキだけでなく、この船にはサンタさんも乗船予定で、父島、母島とも港で子供たちにプレゼントを配るイベントが毎年あるそうです。



父島もクリスマスに向けてライティングされていました

船が来ない間、島の間には、どこかから代替え船を借りてくる、ほかの船に曳航してもらうとか、いろいろな憶測が飛び交いましたが、幸いなことにエンジントラブルは1日で解決して、12月23日におがさわら丸は無事に二見港に到着しました。クリスマスイベントも無事に行われ、防災無線で村中に「お子さんは、三角広場に集まってください。サンタさんがやってきました」との放送が流されました。

ちなみに、このときのおがさわら丸の乗船客は80名弱、ガラガラで怖いくらいだったそうです。今までの乗船客の最低記録は、台風で欠航となったあと、朝に出航が決まったときの10数名だそうです。

2代目おがさわら丸に変わって、2016年7月には3代目おがまるが完成する予定で、現在下関の造船所で着々と工事が進んでいるそうです。今度の2代目おがさわら丸のエンジントラブルは、「もっと小笠原で働いていたいよ」という意思表示だったかもね。と言われている島民のかたもいらっしゃいましたが、そういうこともありそうですね。

⇒ [メルマガ・バックナンバー](#)



出港の日は、サンタさんも港からお見送りをしてくれました

## ■ 編集後記

昨年の年末近くですが、VECで講演会を開催した際に講師の先生が講演の締めくくりとして『七味五悦三会（しちみごえつさんえ）』という言葉を紹介してくださいました。

『七味五悦三会』とは、江戸時代の庶民の風習で、大晦日の夜にこの1年間で体験した「七つのおいしい味」「五つのよろこばしい話」「三つのいい出逢い」を家族で話しながら年を越したそうです。先生は、『七味五悦三会』を2016年の目標にしてはいかがですかとおっしゃって、当時も3人のいい人に出逢うということが一番難しかったそうで、ひとつの出会いを大切にしたい時を過ごしてください、とのことでした。

新年そうそうに受け売りで申し訳ありませんが、大抵「あっという間に」終わってしまう1年ですが、『七味五悦三会』を意識することによって道しるべのようなものが残っていくような気がします。(漠)

## ■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)、[メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 高橋 満

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)

